

市長の ふれあい訪問



「川口婦人剣道クラブ」

昭和55年6月、体育武道センターで開催された女性剣道教室。全10回を修了した13名が、剣道を通して、婦人の健康増進と会員相互の教養を高め、親睦を図ることを目的としてクラブ化。現在会員数は、30代から60代の女性27人。全部員が有段者。女性の生涯スポーツとして、無理のない美しい剣道を目指して、日々稽古に精進している「川口婦人剣道クラブ」を岡村市長が訪問。剣道を始めたきっかけや、今後の抱負などについてお聞きしました。

市長 みなさんこんにちは。4月の市長のふれあい訪問は、今年で25周年を迎える「川口婦人剣道クラブ」のみなさんです。どうぞよろしくお願ひします。まず、設立のきっかけについて教えていただけますか。

部長 昭和55年の6月に女性剣道教室がこの武道館で始まりました。10回の教室が終わり、9月に「川口婦人剣道クラブ」という名前で開催時は13名で発足しました。

市長 学生の時から剣道をやっていたかたも多いと思いますが、このクラブに入ったきっかけを教えてくださいいただけますか。

部員 子どもたちに剣道を習わせていたのですが、練習を見ているうちに自分もやってみたくらいな思い、スポーツは何もやったことが無かったのですけれど、この女性のクラブがあることを知り入りました。

市長 女性と剣道は、私たちの感覚だとなかなか結びつかないところがありますが、指導者の古川先生は男性ですが、その辺は教えていかげですか。
指導者 我々が学生のころは、女性は少なかつたというより皆無に等しかったんです。しかし、ここで18年ほど携わっています。こんなに女性って強いものかな、持久力がこんなにあるものなのかなと驚いているところなんです。

市長 大会に参加するという目標に向けて練習していることと思いますが、練習は週何回行っているのですか。

部員 普段は火曜日と木曜日の2回なのですが、仕事をしているかたもいますので、そのかたは土曜日に練習をしています。また、婦人が集まる「家庭婦人大会」という大会があります。全国大会を目指す稽古にも励んでいます。

市長 全国大会に出場されたかたもいらつしやいますか。

指導者 全国で準優勝をしたかたが二人出ています。普段の稽古でも、女性だからといって甘くやさしくなるということはありません。

市長 部長さんの六段をはじめ、全員が有段者ということですが今はひつたりなどの事件がよくおきていますが、みなさんはつけ入るすきを与えないのでしょうか。

部長 傘を持っているとすごく心強いですね。1本持っているだけで気持ちが変わります。それに、剣道をやっている人は足も速い人が多いので、逃げ足も速いですよ。(笑)

市長 剣道をやっているかたは、姿勢が良いという印象があるのですが、クラブに入られて、何か変わったことなどありますか。

部員 剣道の「かまへの姿勢は、歩く姿が基本になりますので、稽古を重ねるうちに姿勢は良くなったと思います。また、家庭を持ってからは家の中に閉じこもりがちでしたが、クラブに入りみなさんと楽しく稽古をしたり、その後でみなさんとお話できることで、とてもリラックスできるようにになりました。

市長 礼に始まり礼に終わるといいますが、剣道から教えられるものや、大切なものは何ですか。



部員 やはり礼儀が一番大切なものです。そして、集中力も非常に重要なものです。

市長 お話をお聞きしている最中もみなさんはだしですが、冬の練習は寒くありませんか。

部員 冬でも稽古をしていると熱くなり、汗が出てきます。真冬の寒いときは、先に来たかたたちが身体を温めるために、道場の中を走ってから掃除を始めたりにしています。

市長 心身ともに頑強になるのでしょうか。真冬の稽古でも風邪を引かないのでしょうか。

さて、今年25周年を迎える節目の年でもありますが、最後に部長さんから抱負をお聞かせいただけますか。

部長 25年といっていますが、いろいろな変遷がありましたし、家庭をもつていますので、剣道をやりたくてもやれないかたがたくさんおりました。その中で細々続けてきて一番良かったことは、いい汗をかけるということ。稽古の後のさわやかな感じはとてもよいものです。私たちには古川先生や、88歳の前田先生というお手本になる先生がいらつしやいますので、その先生がたから教えを受けて、生涯剣道としてこれからも家庭と両立をさせ、ずっと稽古をしていきたいと思っております。

市長 生涯剣道というのはいいですね。健康な汗をかくということは、いくつになっても良いことです。私は市長として、心身ともに健康な市民が増えることはとても大切なことだと思います。

25周年を期に仲間を増やして、さらに頑張りたいと思います。今日はありがとうございました。